

同志社大学経済学部 2015 年度秋学期特別講義「企業分析」

2015 年 11 月 13 日 「銀行経営における自己資本比率規制と ROE 経営」

講師名 里村正治

学生のベスト・コメント



[回答 18]本日の講義を聞かせていただいて、銀行における自己資本比率と ROE の優先順位は、取引相手によって変えるべきだと感じた。

自己資本比率と ROE は両立できない、特にベンチャー企業や震災後再興を図る企業にとって ROE 値を高く設定することは成長の妨げとなるというお話しが印象的であった。

今までの授業では ROE を高めることの必要性やメリットばかり理解してきたため、日本が戦後から ROE が低い背景や ROE 値が高いことのデメリット、ジレンマを知り大変驚いた。物事はあらゆる角度から考えるべきであることを再認識した。

講師からのコメント

今回の講義では、特に銀行経営においては、ROE の向上を目的とする経営にも問題が潜んでいることを伝えたかった。ROE とは逆相関の関係にある自己資本比率 (CAR) の充実は、将来の金融機関として適切なリスクを取るための必要条件でもある。

たとえ少子高齢化社会にあっても日本経済の健全な発展のためには、この ROE と CAR の経営指標を相互にバランスを取った経営を実践することが重要である。

日本経済の高度成長は今や望むべくもない。今後の安定的な日本経済の成長のためには、大企業向けファイナンスのみでは不足である。中堅・中小企業やベンチャー企業育成に結びつける適切なファイナンスが従前にも増して重要になっている。

特に、地方銀行においては、主たる営業基盤である地域の活性化、成長につながる適切な金融を遂行することが何よりも求められていることである。

銀行経営は、固より ROE と CAR の 2 軸で測られるものではなく、また単年度決算に焦点を合わせた短期的視点のみでは全く不十分である。経済社会の複雑化に同期を取った高度に複雑化している銀行経営の実態を、まだ勉学途上の学生に少しでも感じ取ってもらいたいとの思いで講義を進めた。

以上